

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course
海事科学部	海洋安全システム科学科

(1) 見たこと/What you saw; (2) 考えたこと/What you thought; (3) 感じたこと/What you felt

～インドネシアにおける研修でわかったこと、学んだこと、感じたこと。～

2週間このプログラムに参加することができて、本当に良かったと思います。それは様々な要因からこのように感じています。

まず1つ目は、現在の自分のレベルを知ることができたことです。英語力や様々な分野に対する知識力、また考える力やどんどん前に出て発言する力などです。英語力に関しては、すべての技能において不安が残るままインドネシアへ行きました。さらに2週間滞在は初で外国の人とそこまで英語で話してこなかったのも、通用するかわかりませんでした。しかし、2週間のうち、最初の方はあまり喋ることも聴くこともできませんでしたが、徐々に自信が出てきて、オープンマインドに接することができるようになりました。相手の話をしっかり聴こうと集中し、こちらからは伝えたいと思いながら、表情やジェスチャーで一生懸命表すと伝えることができるようになりました。ただこれから英語力をもっとあげて、再度挑戦したいと思います。

知識力に関して、例えば災害系、保健系、工学系、ロジスティック系、科学系などの様々な分野の専門の多国籍な人たちが集まり、考えを共有しました。やはり背景も文化も考え方も違うので、常に驚きや疑問、新しい見方が増えていきました。また専門じゃないはずの分野についても、しっかりと考え想像していくことができるのはすごいと思いました。これからどんどん新しいことを吸収していくことにしました。自分の意見を言うこの大切さも海外で実感できて良かったです。

2つ目は、現地の人たちと触れ合う機会が多く、どの人も気さくで優しいと思いました。ガジャマダ大学の学生の人たちにはとてもお世話になりました。最初は頼りっぱなしでした。なぜ、こんなにぼく達のために動いてくれるのだろうと疑問に思っていました。皆、良い笑顔で接してくれ、拙い英語でもコミュニケーションを取ろうとしてくれたので、ありがたかったです。日本にいる海外の人たちにも恥ずかしがらずに、笑顔でもっと接して行こうと思えました。

街中で出会う人たちや、店やホテルの人たちも皆フレンドリーで穏やかでした。ゆったりとした時間が流れていて、落ち着きました。Wi-fi なしで道に迷いかけたことが何度かありましたが、親切に教えてくれて助かりました。現地の言葉を話すことで、相手の心が開かれるのが目に見えてわかり、現地の言語を話すことの重要性も感じることができました。

3つ目は、実際に災害の現場などに足を運ぶことができたことです。災害系のことは研究室で少しはわかるので、メラピ火山の資料館やビックウェブがくる Coastal area や、河川で火砕流、土石流のあと洪水が起こったため JICA が作った砂防ダムフィールドワークでさらに理解が深まりました。ただ様々な災害要因が2つでも重なった時のことは、全く考えられていなかったのも、その点はやや心配です。

最後は、開発途上国であることを要所所で感じたことです。例えば、水周りの環境、衛生状態、交通状態などです。水周りや外での露店などでの衛生状態は大丈夫なのかと思いました。交通についても、鉄道が見る限りなく、バイクに乗っている人が多かったです。実際、インドネシアの知り合いの人にバイクの後ろに乗せてもらって移動した時はスリルがありましたが、おもしろく良い体験になりました。中学のときに教科書でバイクの数が多く自転車に乗っている人は少ないことが、写真などから印象に残っていたので、自分の目で見ることでとても参考になりました。車や交通状態についても興味があるからです。ほとんどが一昔前の日本車で、車バイクともに多く、排気ガスは非常に地球にも体にも悪い臭いがしました。また、信号が極端に少なく、足に障がいがあるひとや、お年寄りはどうのようにして渡るのが疑問に思いました。

インドネシアの国民性や時間の流れ方がとても気に入ったので、ぜひ将来何かしらインドネシアの役に立つこ

とや関係できることに携わりたいと思い、恩返ししたいと感じました。日本の企業がインドネシアに多く進出しているところですが、お互いの国で高め合えたら良いなと強く思います。

本当に2週間、毎日刺激が多く、瞬く間に日経ちましたが、この経験を生かして忘れずに過ごそうと思います。